

はなされてきて、学問上極めて有意義な成果は挙げられてきてはいるが、報告者は、近年極めて豊富となった新出土医薬文物資料の検討をも重要な基礎として、古代原始本草体系の具体的な姿を推察しようとする努めをしている。

(大阪府立茨木高等学校)

## 中国医学と道教

(Ⅲ 薬籤について)

吉 元 昭 治

さきの本学会において、演者は中国伝統医学と道教とが密接な関係があることを述べた。すなわちその概説と、最も古い道教々典といわれる「太平経」にみられる医学的事項を分類、整理し、道教医学といわれるべきものの存在を發表した。

今回は、最も新しい、現在における道教医学の遺影として、特に台湾における、薬籤について述べることにする。現在台湾においては、道教は仏教等と習合して民間信仰の形をとっている。道教の医学的部門、すなわち道教医学もこれに伴い、民間療法の姿に変っている。

この道教医学のうちで、籤(おみくじ)は薬籤に、符(おふだ)は安胎符とか催生符となり、巫覡的な面は童乩となっている。

演者はこの数年間、台湾における薬籤の蒐集につとめた。大体において薬籤をおいている廟の数も少なくなっている傾向にあるようで、主に台湾中部より南部にかけて多いようであった。

薬籤は医術の神である保生大帝を祀る保安宮、天医真人を祀る岳帝廟、関羽を祀る関帝廟、媽祖を祀る媽祖廟等にある。

病気の治癒祈願のために、廟に行き、棒物さし、線香をあげ、跪拝して、おみくじをひくように薬籤筒より願いごとをしてその一本をとる。これが神のおぼしめしかどうかは、更に筈(杯筈)といわれる方法で決定するのである。こうしてきまった薬籤の番号に相当した処方がかいてある紙をもらい、薬店にいったって調剤してもらって服用するのである。この間の祈願する人々の姿はまことに真摯なものがある。

薬籤の種類も大人科、小児科、婦科、眼科等にわかれ、そのおのおの五十から百以上の処方が見られる。その内容はいわゆる草根木皮であって漢方生薬として利用されるものである。しかしなかには、民間療法の特徴として理解

に苦しむものもある。例えば人尿を人中自、蝙蝠糞を夜明珠、蛆を天漿子、蛇殻を蛇退、蚯蚓を土龍としている。その他、美称や、あて字も多く、処方内容を理解するのが困難でもある。

道教教典の集大成である。「道蔵」のなかには、薬籤はみられないので、少なくとも明代以後に発生したものであろう。戦前の満州(現中国東北地方)にも存在していることを確めているので、相当広範囲に行われ、医療の一端を荷っていたし、現在台湾でも行われているのである。

薬籤のおいてある廟に、疋籤者の数をたずねると、今でも相当の人々がやってくるそうで、これはとりもなおさず、薬籤の効果をしめしているという。しかしそのルーツはどこでもはっきりしないようで、多くは創廟当時よりあったという。

このように、薬籤は、今日道教医学が現在なお生きている一つの証(あかし)であり、その内容もいわゆる漢方医学と密接なものである。薬籤についての研究も皆無に近いので、医学史の方面からも貴重な存在といえよう。

発表に際して薬籤の種類、疋籤の方法、およびその内容

についても述べたいと思う。

(吉元医院)

## 華佗と麻酔

松木明知

### 1

中国三国時代の華佗は、全身麻酔下に開腹術を行ったことと有名である。

魏の曹操は彼を招いて侍医になることを求めたが、華佗はこれを拒絶したため、彼は遂に捕えられて獄死した。

このため大麻を用いたとされる麻酔法の秘伝は伝えられなかった。

華佗の麻酔法は、それまで全く中国には知られていなかった医術であり、江上波夫博士は、麻酔術は西域的な、イラン的な要素が包含されていると説く。

つまり華佗は麻酔の術を少なくともイランの幻人(マジック)から伝授されたものであるという。

### 2

さらに「華佗」は中世ペルシャ語「フアディー」または